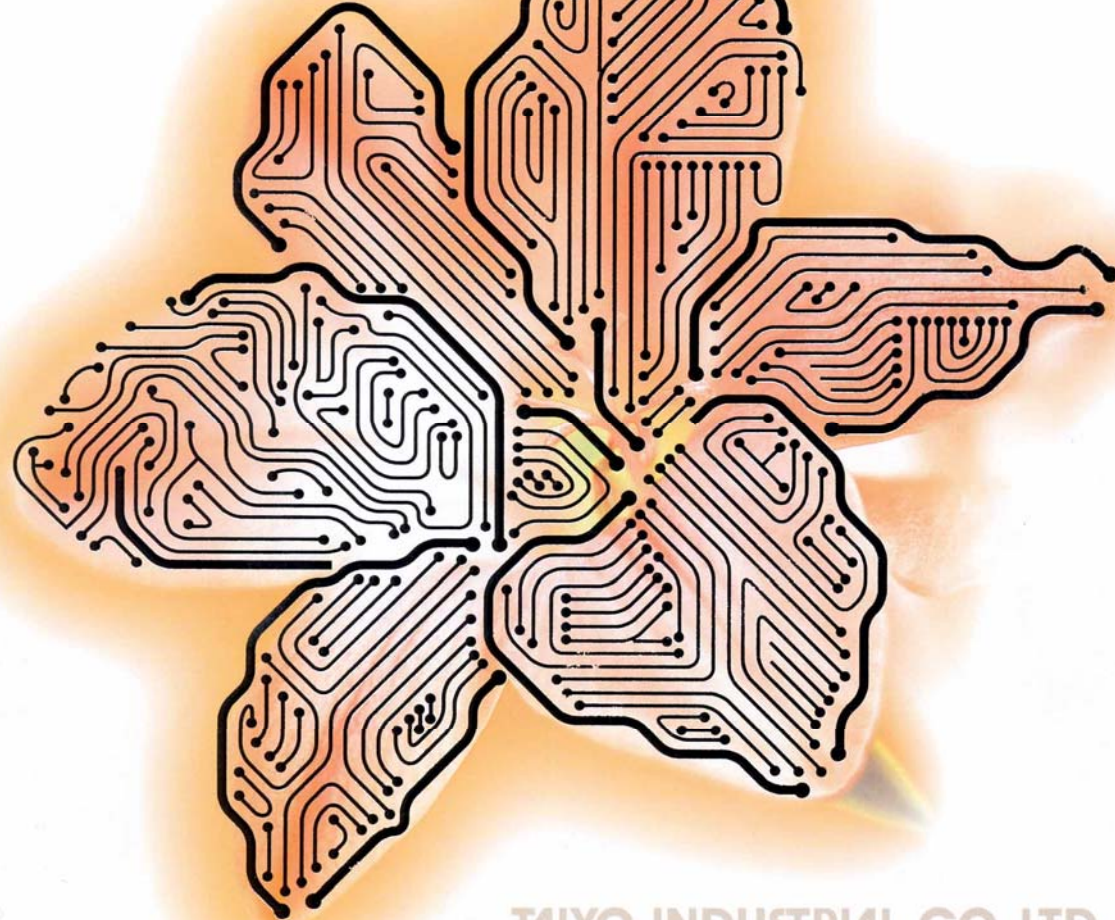


2005年12月期 中間決算



TAIYO INDUSTRIAL CO.,LTD.



TAIYO

太洋工業株式会社

目次

- ◆会社概要
- ◆2005年12月期中間決算の実績
- ◆2005年12月期の見通し
- ◆今後の展望

会社概要

特徴・強み



☆あらゆるニーズに対応したFPC※の試作

☆短納期を実現（中2日、高精細でも中6日）

FPCの試作に特化

安定的な受注

セットメーカーとの
緊密な関係

高収益

※FPC:フレキシブルプリント基板。

TAIYO INDUSTRIAL CO.,LTD.

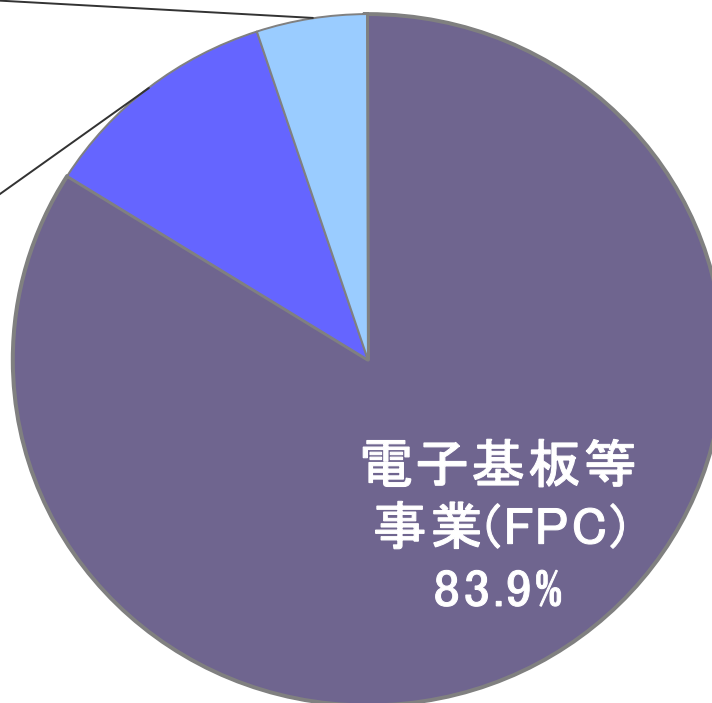
事業内容

電子基板等事業(FPCの試作)が主力。

鏡面研磨機事業
5.0%



基板検査機事業
11.1%

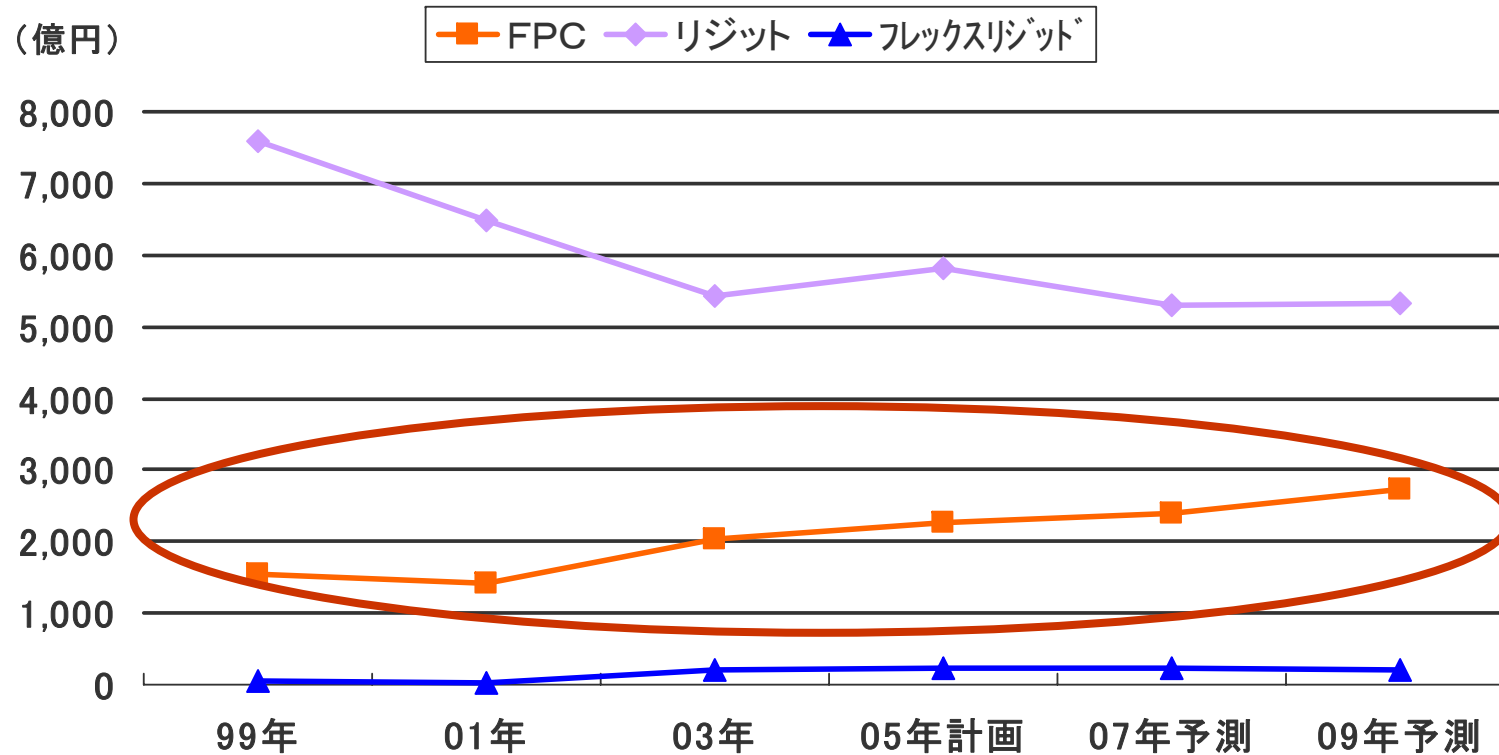


※05/12期中間決算の状況

事業環境

リジットの横ばいに対しFPCは拡大が期待。

＜国内の電子基板の生産額＞



(資料) 社団法人日本電子回路工業会の統計をもとに作成

2005年12月期 中間決算の実績

05/12期中間決算の概況

前年同期比で売上高は微減にとどまるが利益は減少。

(単位:百万円)

| | 04/12中間実績 | | 05/12中間実績 | | 前年同期比 | |
|---------------|-----------|--------|-----------|--------|-------|-------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 増減 | 増減率 |
| 売上高 | 2,950 | 100.0% | 2,893 | 100.0% | △57 | 98.1% |
| 売上総利益 | 1,162 | 39.4% | 1,006 | 34.8% | △156 | 86.6% |
| 営業利益 | 772 | 26.2% | 522 | 18.0% | △250 | 67.6% |
| 経常利益 | 761 | 25.8% | 520 | 18.0% | △241 | 68.3% |
| 中間(当期) 純利益 | 391 | 13.3% | 296 | 10.2% | △95 | 75.7% |

05/12期中間決算のセグメント別業績

主力のFPC試作は増収を確保するが営業利益は減少。

(単位:百万円)

| | | 04/12 | 05/12 | 前年同期比 | |
|-------------------|------|-------|-------|-------|--------|
| | | 中間実績 | 中間実績 | 増減 | 増減率 |
| 電子基板等 事業(FPC等) | 売上高 | 2,384 | 2,428 | 44 | 101.8% |
| | 営業利益 | 856 | 809 | △47 | 94.5% |
| 基板検査機 事業 | 売上高 | 274 | 321 | 47 | 117.2% |
| | 営業利益 | 14 | △61 | △75 | - |
| 鏡面研磨機 事業 | 売上高 | 290 | 143 | △147 | 49.3% |
| | 営業利益 | 103 | △7 | △110 | - |

※各営業利益は配賦不能営業費用控除前の数字を記載。

05/12期中間決算のポイント

◆電子基板等事業（FPC等）

➤売上高は増収確保

- 携帯電話端末の販売が踊り場状態の中、FPC量産メーカーが試作も行うようになり、これらとの競合で思い通りの値段で販売できない。
- 取引割合が80%超と拡大しているセットメーカーからの良好な受注があるがカバーしきれず。

➤営業利益は原価の上昇等で減益

- 通常は簡易金型を使っていたが、高精度を求める顧客の要望で本金型を使用することによりコストが上昇。
- これまで外注依存度の高かった部品実装に関する工程が増加し、全体の利益率が低下。尚、部品実装工程の増加は、一貫工程の充実による顧客満足度向上のため。

05/12期中間決算のポイント

◆ 基板検査機

➤ 売上高は増加

□「外観検査機」の増加。

- 基板メーカー各社が最終外観検査にかかる人件費削減のため設備投資を強化。

□ただし「ベアボードテスター」は減少。

- 主要販売先である硬質基板メーカーの海外生産拠点拡大によりこれらへの国内販売が減少。
- また、国内でも硬質基板メーカーの求める多品種少量生産向け小型機は売れているが、金額の大きな量産向けの自動機の販売が振るわない。

➤ 営業利益は赤字に

□新型の外観検査機や次世代ベアボードテスターの開発投資コストがかさみ、営業利益は赤字に。

05/12期中間決算のポイント

◆鏡面研磨機

➤売上高は減少

□売上高の水準は平年並であるが、04/12期に03年12月分の売上高が04年1月にずれ込んで計上され予想以上のイレギュラーな売上高となったため、結果的に今中間期は前年同期比で減少。

➤営業利益は原価上昇で赤字に

□機能向上のための新しいソフトの制作費など外注費が増加。

□鋳物メーカー減少で鋳物部分の調達が難しく、調達コストが上昇。

2005年12月期
の見通し

05/12期決算の見通し

売上高は増収を確保するが下期も利益の好転は困難な見込み。

(単位:百万円)

| | 04/12実績 | | 05/12通期予想 | | 前年同期比 | |
|---------------|---------|--------|-----------|--------|-------|--------|
| | | 構成比 | | 構成比 | 増減 | 増減率 |
| 売上高 | 6,002 | 100.0% | 6,179 | 100.0% | 177 | 102.9% |
| 売上総利益 | 2,373 | 39.5% | 2,082 | 33.7% | △291 | 87.7% |
| 営業利益 | 1,466 | 24.4% | 1,098 | 17.8% | △368 | 74.9% |
| 経常利益 | 1,399 | 23.3% | 1,071 | 17.3% | △328 | 76.6% |
| 中間(当期) 純利益 | 784 | 13.1% | 605 | 9.8% | △179 | 77.2% |

05/12期決算のセグメント別見通し

主力のFPC試作は増収を確保するが通期でも減益。

(単位:百万円)

| | | 04/12 | 05/12 | 前年同期比 | |
|-------------------|------|-------|-------|-------|--------|
| | | 実績 | 通期予想 | 増減 | 増減率 |
| 電子基板等 事業(FPC等) | 売上高 | 4,897 | 5,008 | 111 | 102.3% |
| | 営業利益 | 1,777 | 1,583 | △194 | 89.1% |
| 基板検査機 事業 | 売上高 | 620 | 790 | 170 | 127.4% |
| | 営業利益 | △19 | △53 | △34 | 278.9% |
| 鏡面研磨機 事業 | 売上高 | 484 | 380 | △104 | 78.5% |
| | 営業利益 | 129 | 2 | △127 | 1.6% |

※各営業利益は配賦不能営業費用控除前の数字を記載。

05/12期決算見通しのポイント

◆ 下方修正の要因

➤ 予想以上に利益率が悪化

- 販売数量は減っていないが、試作に進出してきているFPC量産メーカーとの競争により、思い通りの利益率で販売できないため。
- 高い利益率を達成した前年度と同水準の利益計画をたてていたが、材料費及び外注費の上昇と積極的な営業展開等によるコスト増となったため。

◆ 通期見通し（FPC量産メーカーとの競争）

➤ 売上高は微増

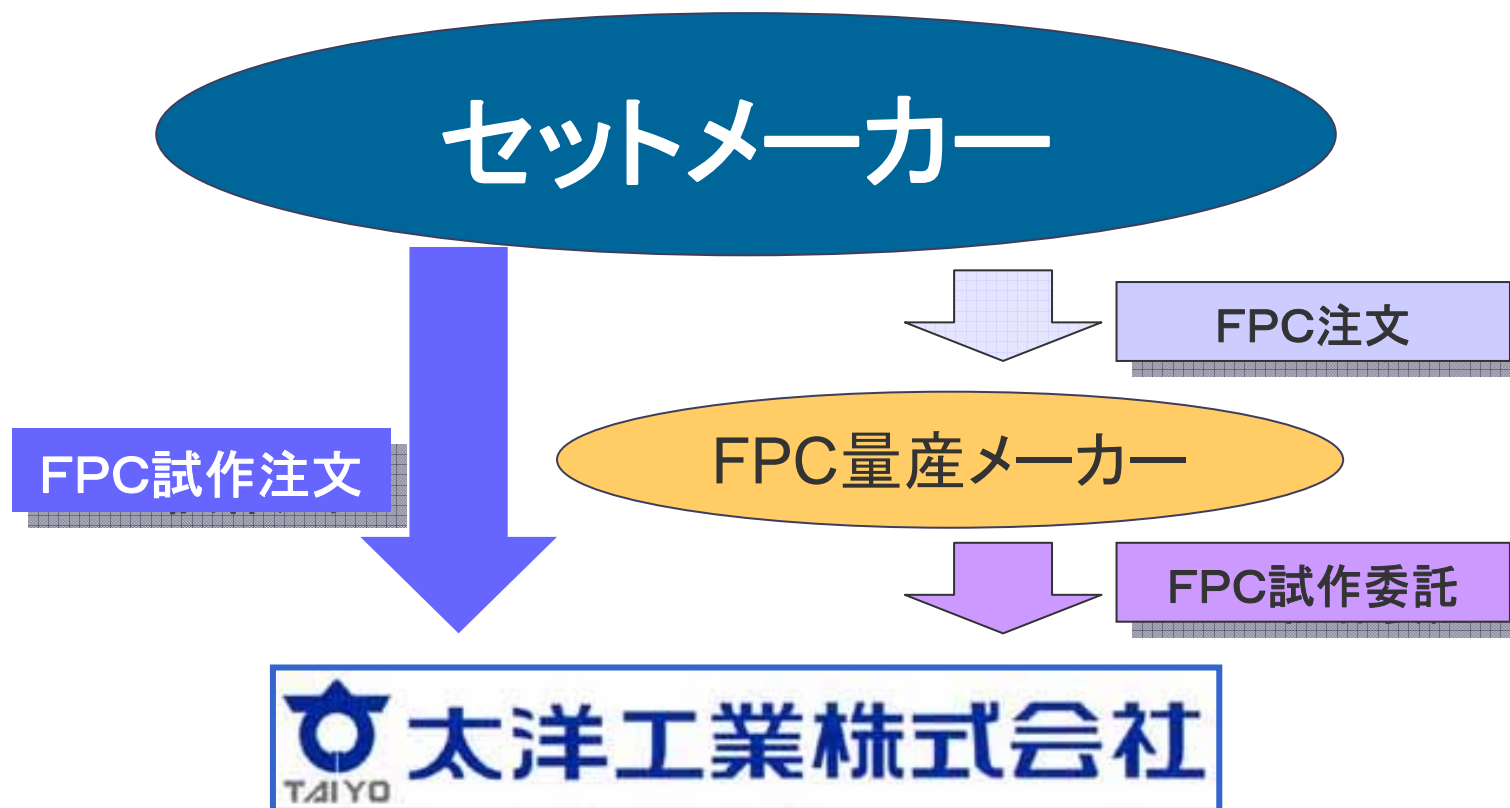
- 主力のFPC試作は増収を確保。
- 基板検査機事業では「PDP（プラズマディスプレイ）用検査機」の増加が期待。
 - PDPメーカーが液晶ディスプレイ陣営との競争で設備投資を増強。

➤ 利益は減益

- 各セグメントとも上期の状況が引き続き影響。

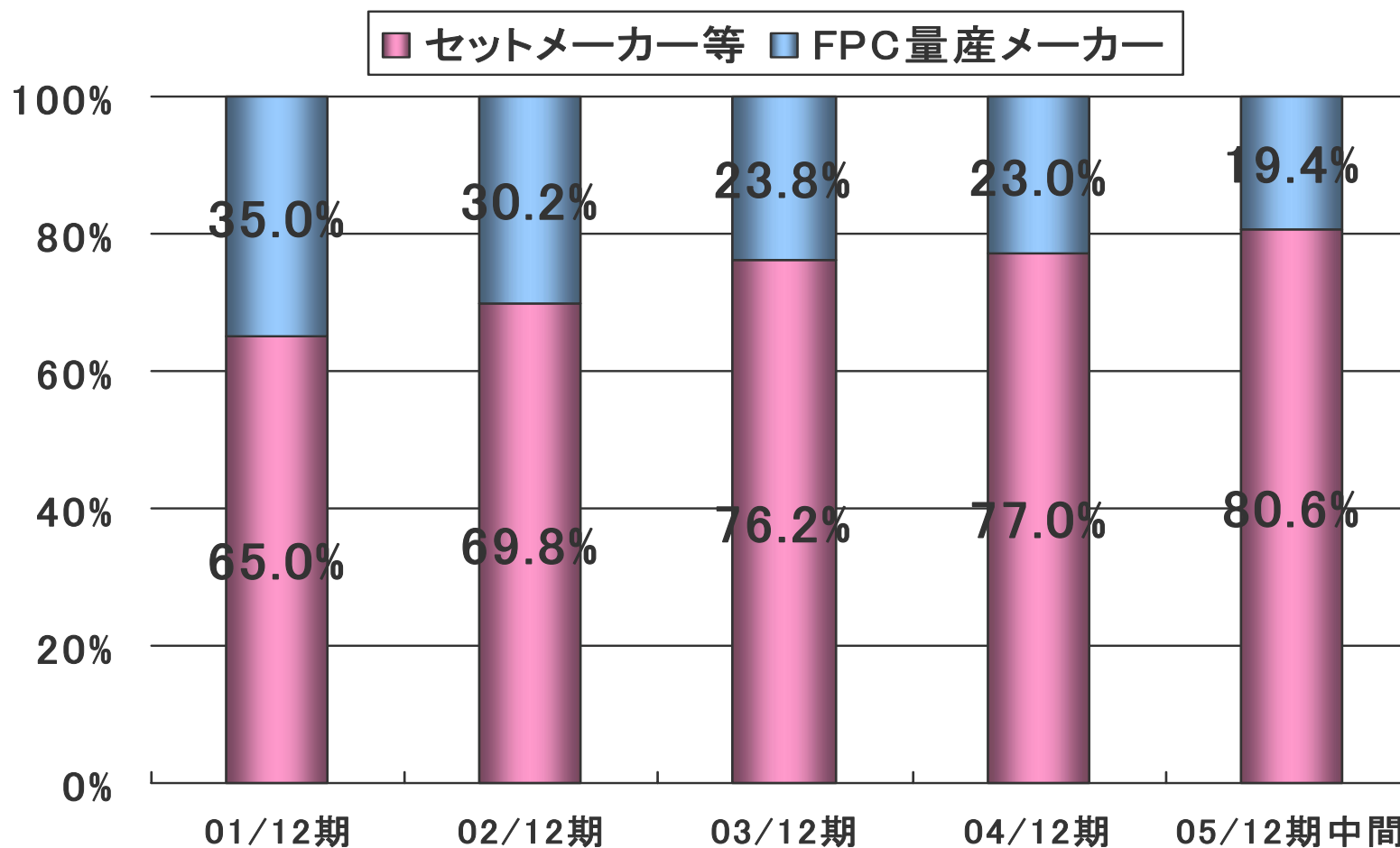
取り引きはセットメーカー中心

FPC量産メーカーは収益環境が厳しく試作に進出し競合。



セットメーカーとの取引先を拡大し 収益の安定性を高める

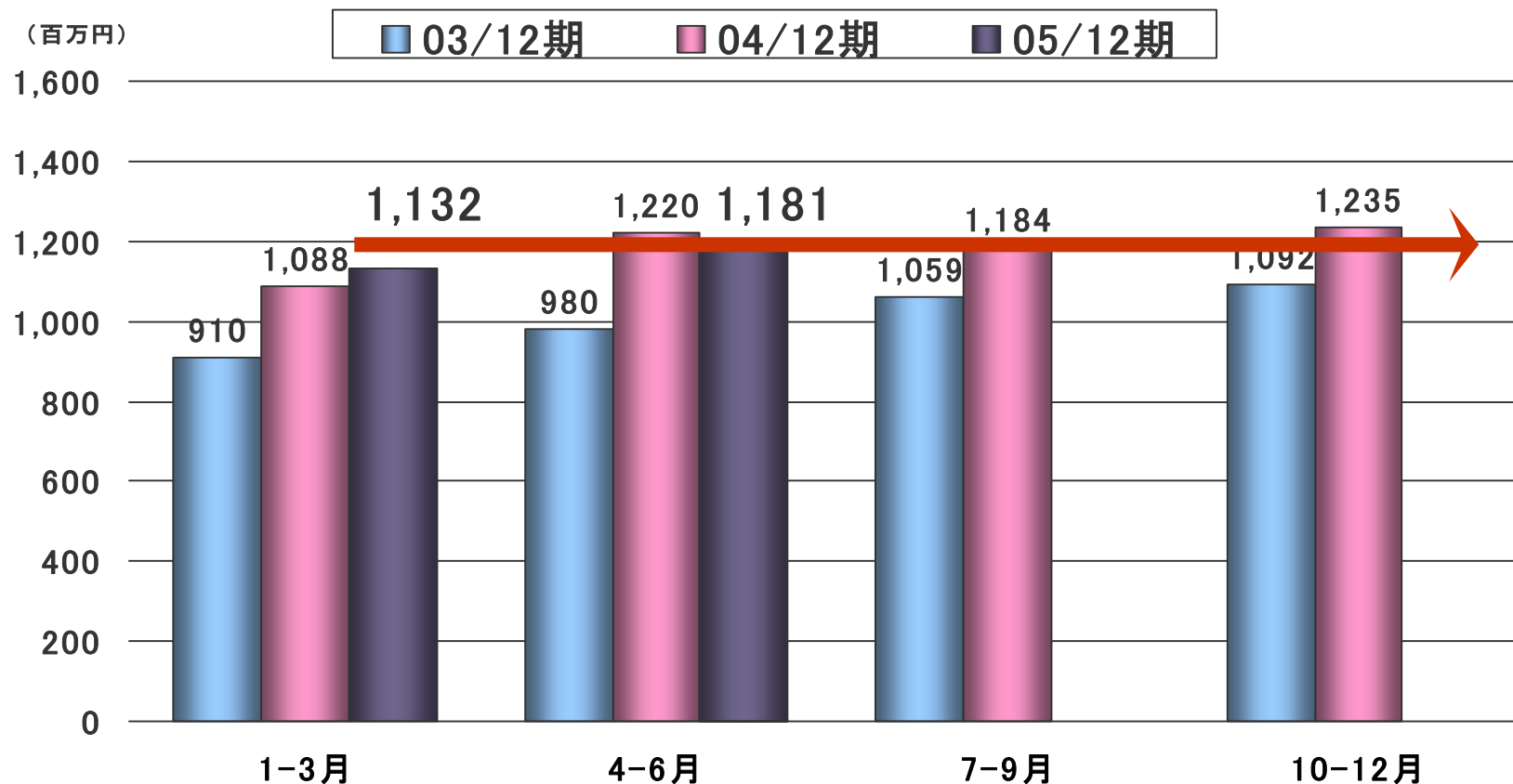
＜FPCの取引先であるセットメーカーとFPC量産メーカーのシェア＞



主力のFPCの四半期売上動向

前年同期並みの水準で推移した上期のペースを下期も継続の見通し

＜FPCの四半期ごとの売上高推移＞



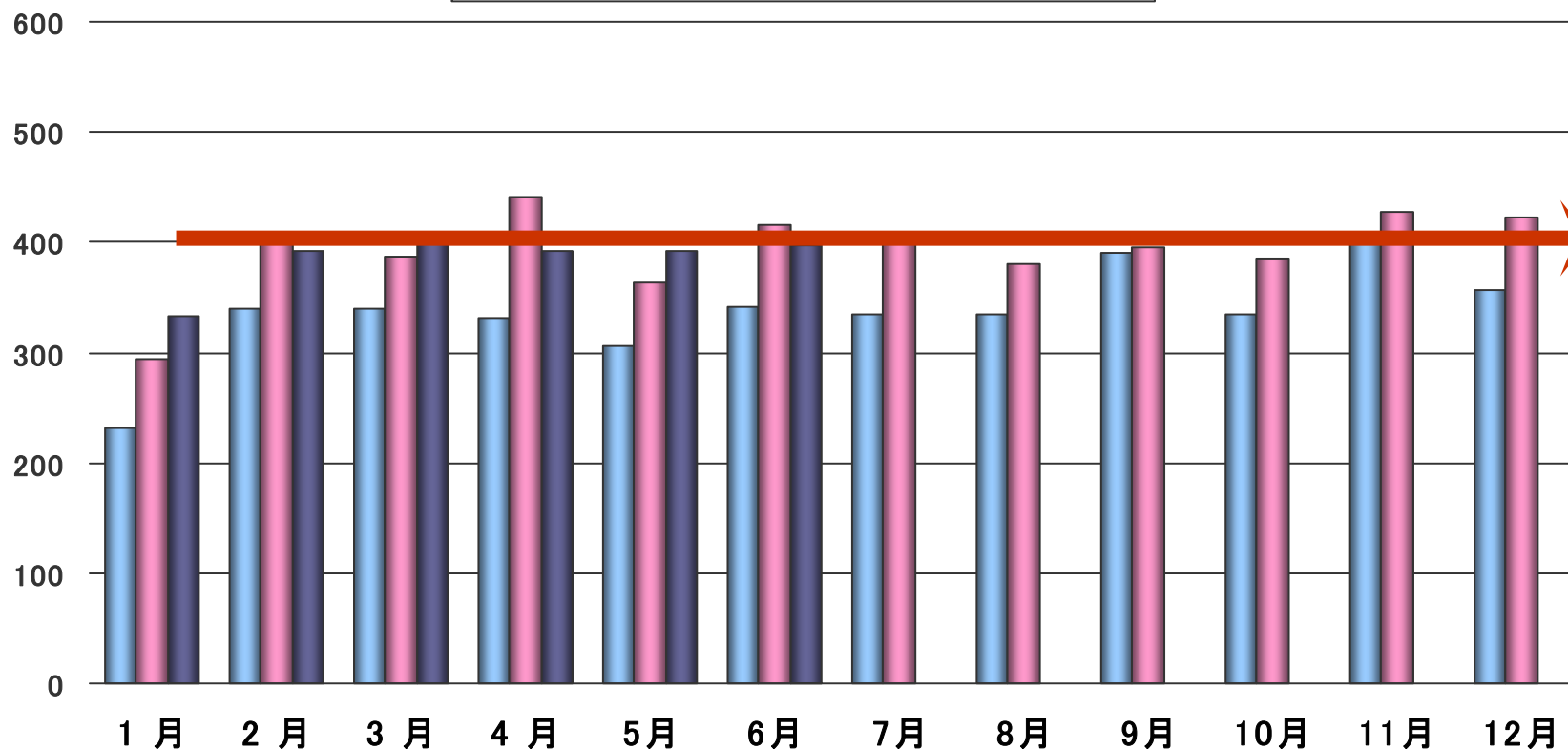
主力のFPCの月次売上動向

毎月ほぼ安定したFPCの売上高は下期も上期のペースを継続する見通し

<FPCの月次売上高の推移>

(百万円)

■ 03/12期 ■ 04/12期 ■ 05/12期



今後の展望

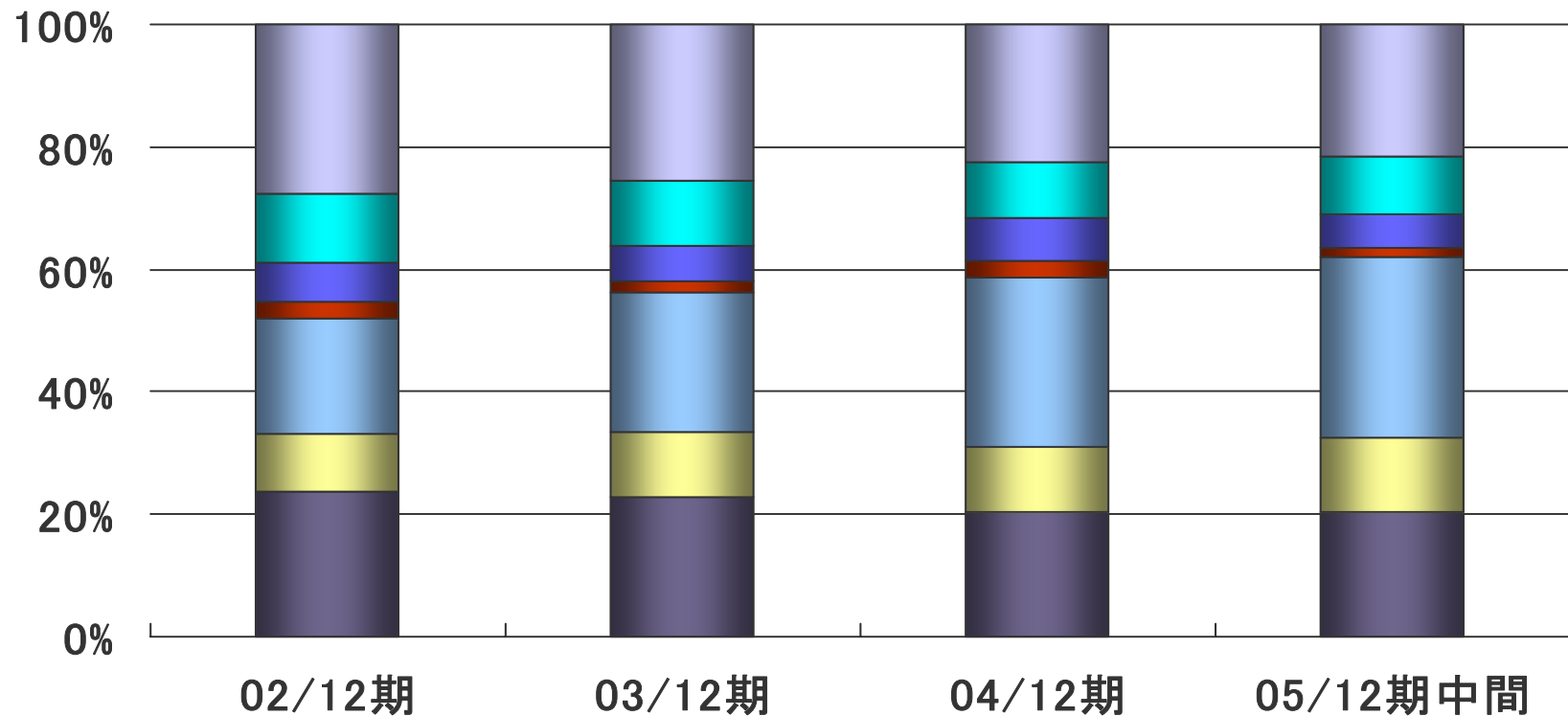
今後の展望

- ① 携帯電話は機種変更で端末需要増が期待
- ② 追従を許さない「短納期」の推進
- ③ 積極的な営業活動の展開

①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待 FPC試作の売上の約半数が携帯電話

<FPC売上高の用途別分類>

■カメラ・デジカメ ■携帯電話 ■ディスプレイ ■モーター ■ピックアップ ■産業機器 ■その他

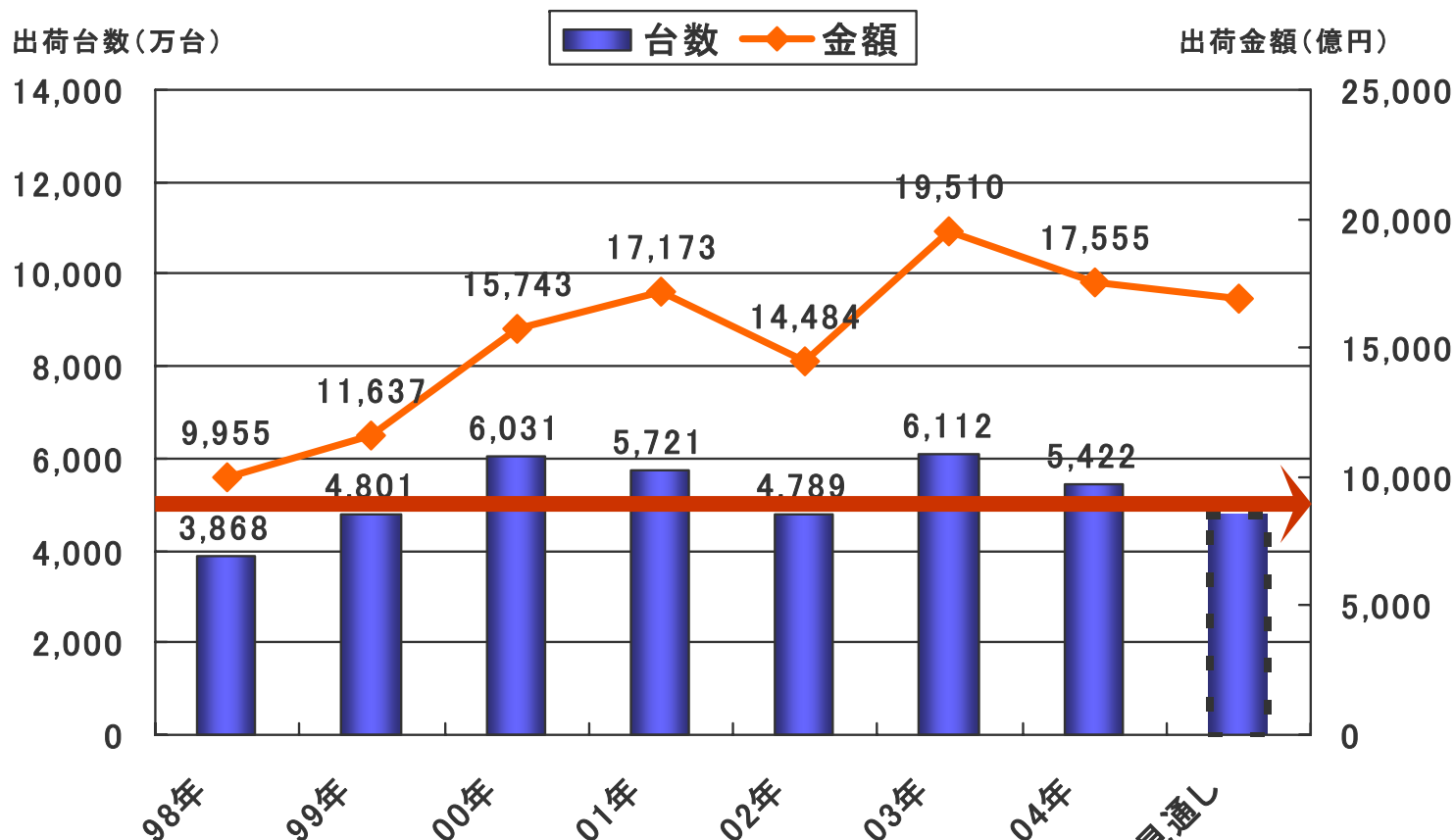


※ディスプレイには携帯電話、デジカメ向けも含まれる。

①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待

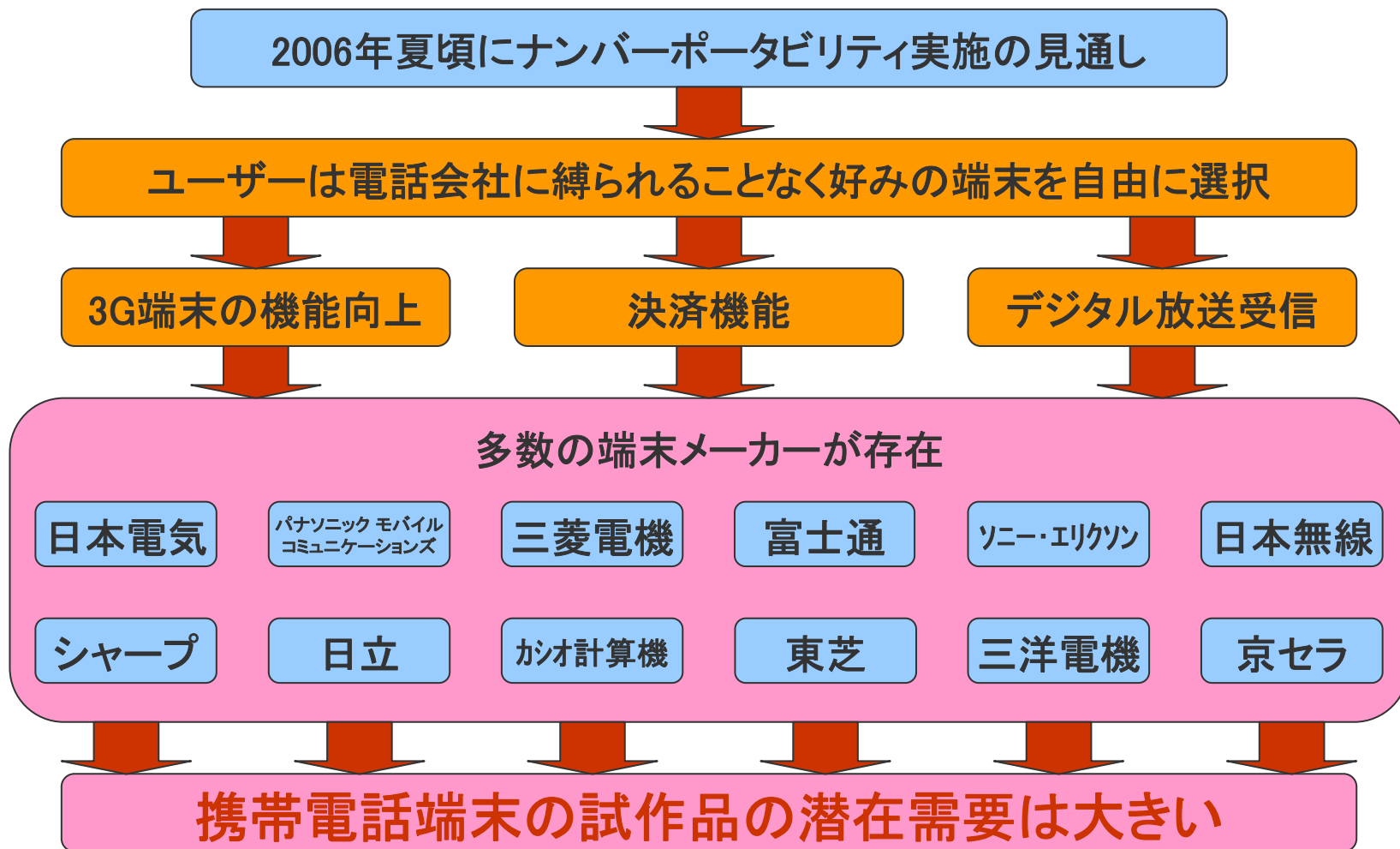
携帯電話・PHS端末の年間生産台数は毎年5,000万台前後で推移

<携帯電話・PHS端末の年間生産台数と金額>



(資料)通信機械工業会の統計をもとに作成

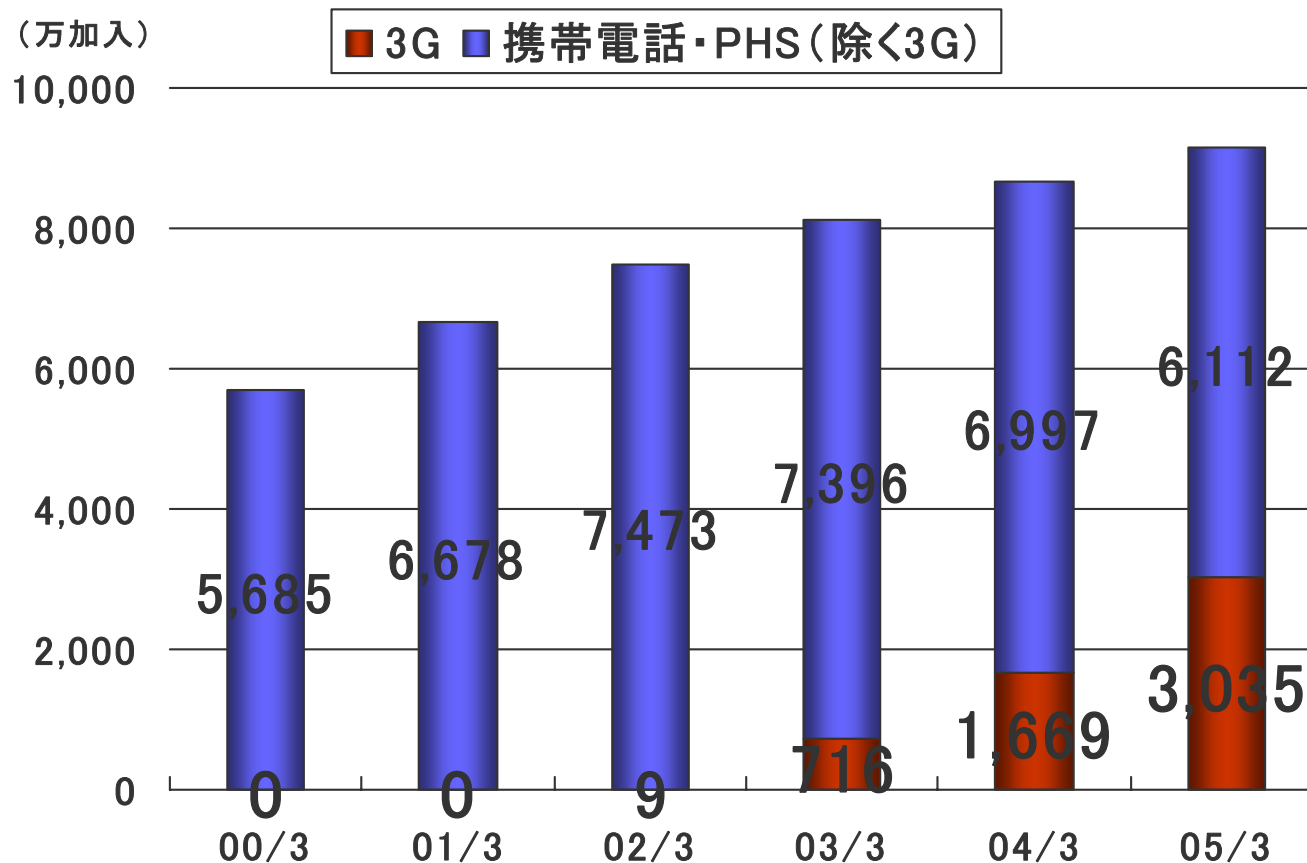
①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待 安定需要が見込める携帯電話端末



①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待

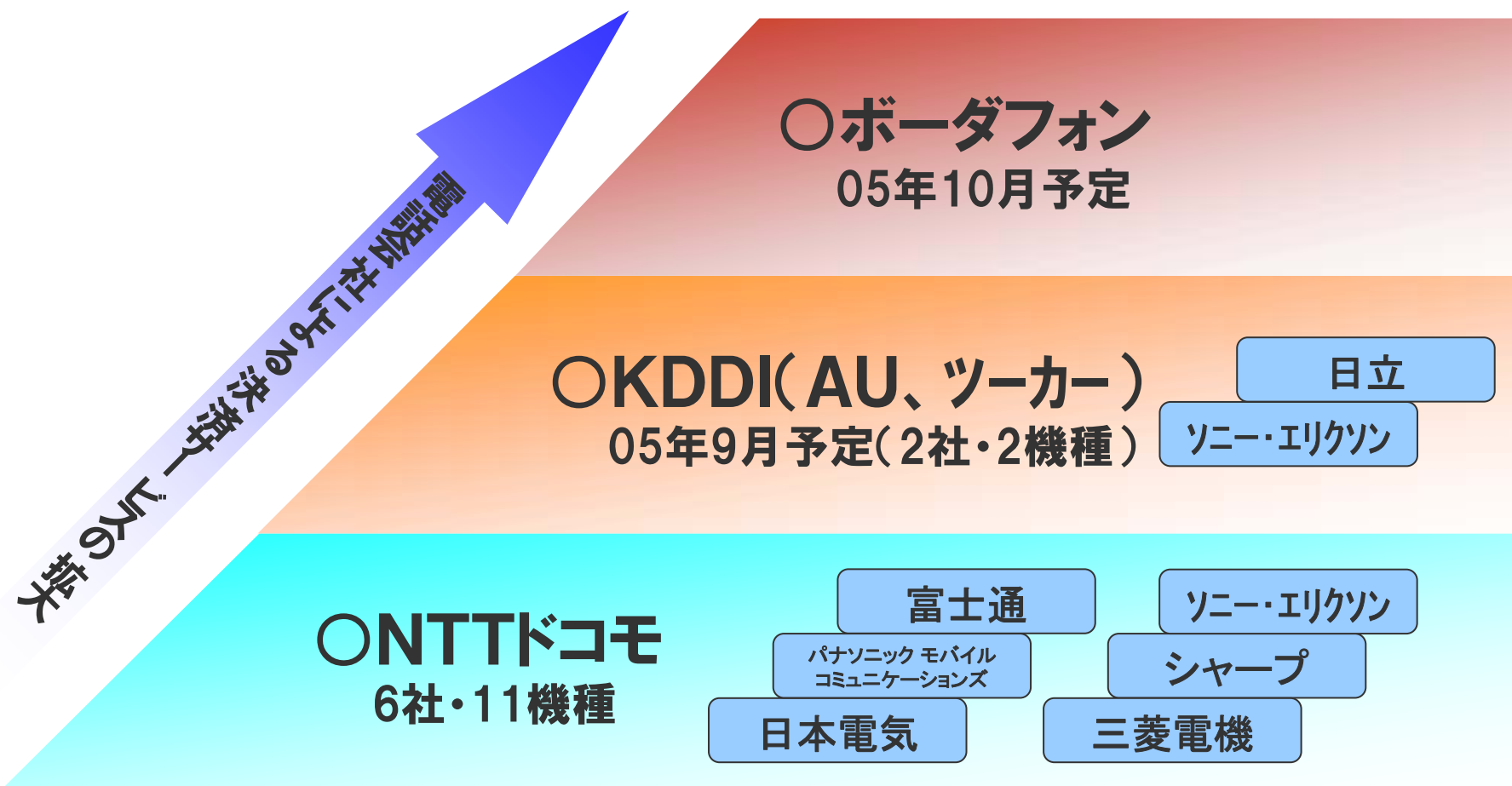
「基地局整備」「端末小型軽量化」で使い勝手が向上し3G端末の加入者増

＜携帯電話・PHS端末の新規加入台数＞



(資料)総務省の統計をもとに作成

①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待 電話会社の決済サービス採用が増え対応端末の増加が期待



※05年8月現在の状況。

①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待 携帯電話向けデジタル放送(1セグ放送)は2006年開始予定

◆注目される災害時における利用(最近の事例)

➤地上デジタル放送を活用した緊急地震速報の実用化試験

□KDDI、(社)三重県情報通信基盤整備協会、三重テレビ放送、ウェザーニューズ

- 屋外でも緊急放送情報を得ることができ、GPS機能もあわせることで、災害伝言板による安否確認や避難所情報の提供等が実現可能。

➤地上デジタル放送・携帯電話向けサービスの実験

□ボーダフォン、NHK、シャープ

- 災害時など通信が混み合う際にも放送局からの情報が伝送でき、データ放送を使った災害情報やライフライン情報の伝達に役立つ。

(資料)KDDI、NHKホームページを参考に作成

①携帯電話は機種変更で端末需要増が期待

日本の通信規格が世界に広がり国内端末メーカーの販売拡大が期待

◆ 第二世代(2G): 国内

- 日本:PDC
 - 海外に拡大せず。
- 欧州:GSM
 - 欧州やアジアを中心に100ヶ国以上で利用。

◆ 国内端末メーカーの販売はほとんど国内市場に限定。

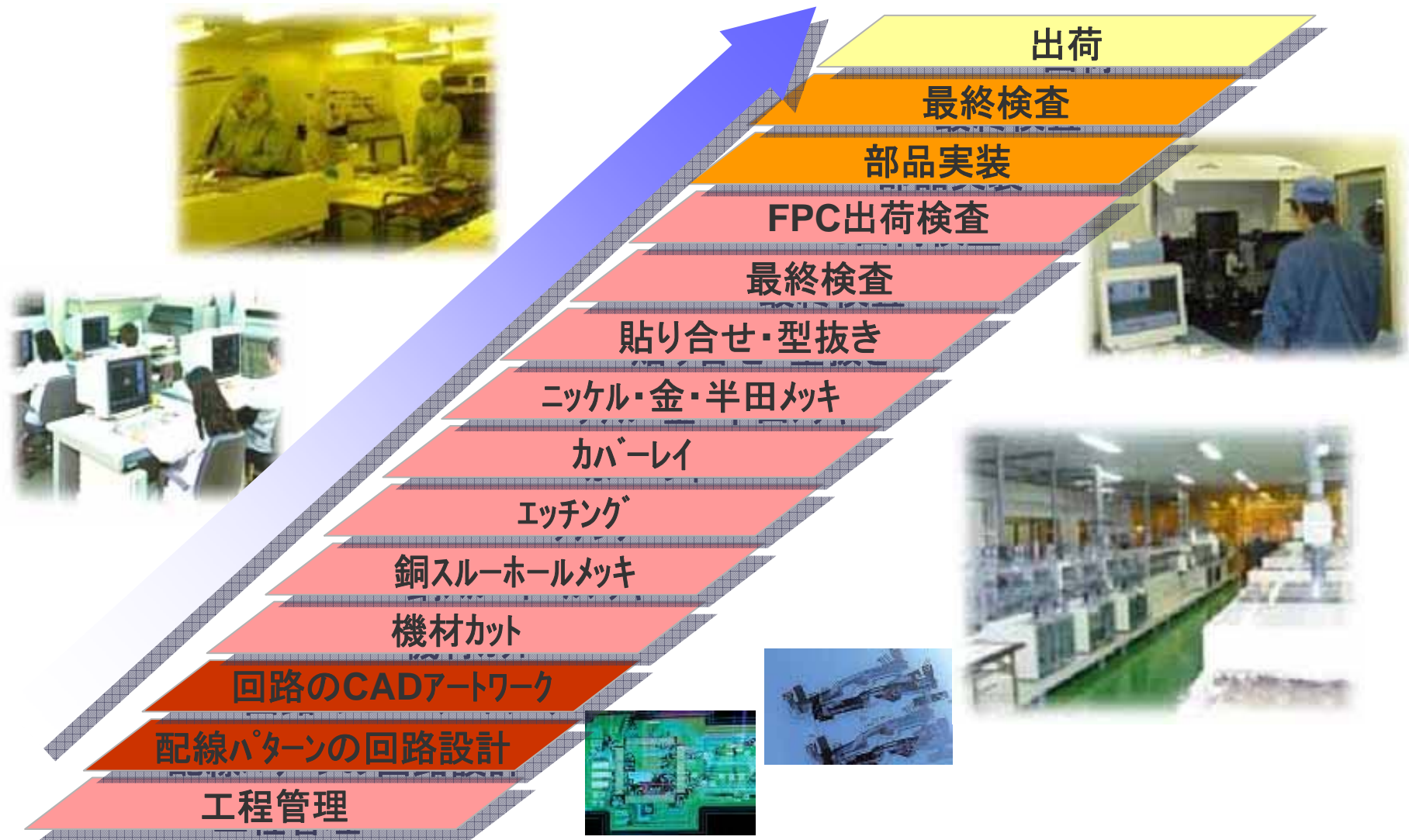
◆ 第三世代(3G): 全世界

- 日本・欧州:W-CDMA方式
 - NTTドコモやエリクソンが開発し、ボーダフォンも採用。
- 米国:cdma2000方式
 - カルコムを中心に開発し、KDDI(AU)も採用。

◆ 国内端末メーカーの欧米やアジアでの販売増加が期待。

② 追従を許さない「短納期」の推進

一貫工程により手間のかかる作業を短時間で完了



②追隨を許さない「短納期」の推進

一層の設計力強化と実装等の組み入れによる一貫工程の充実

◆高い技術力を誇る回路設計

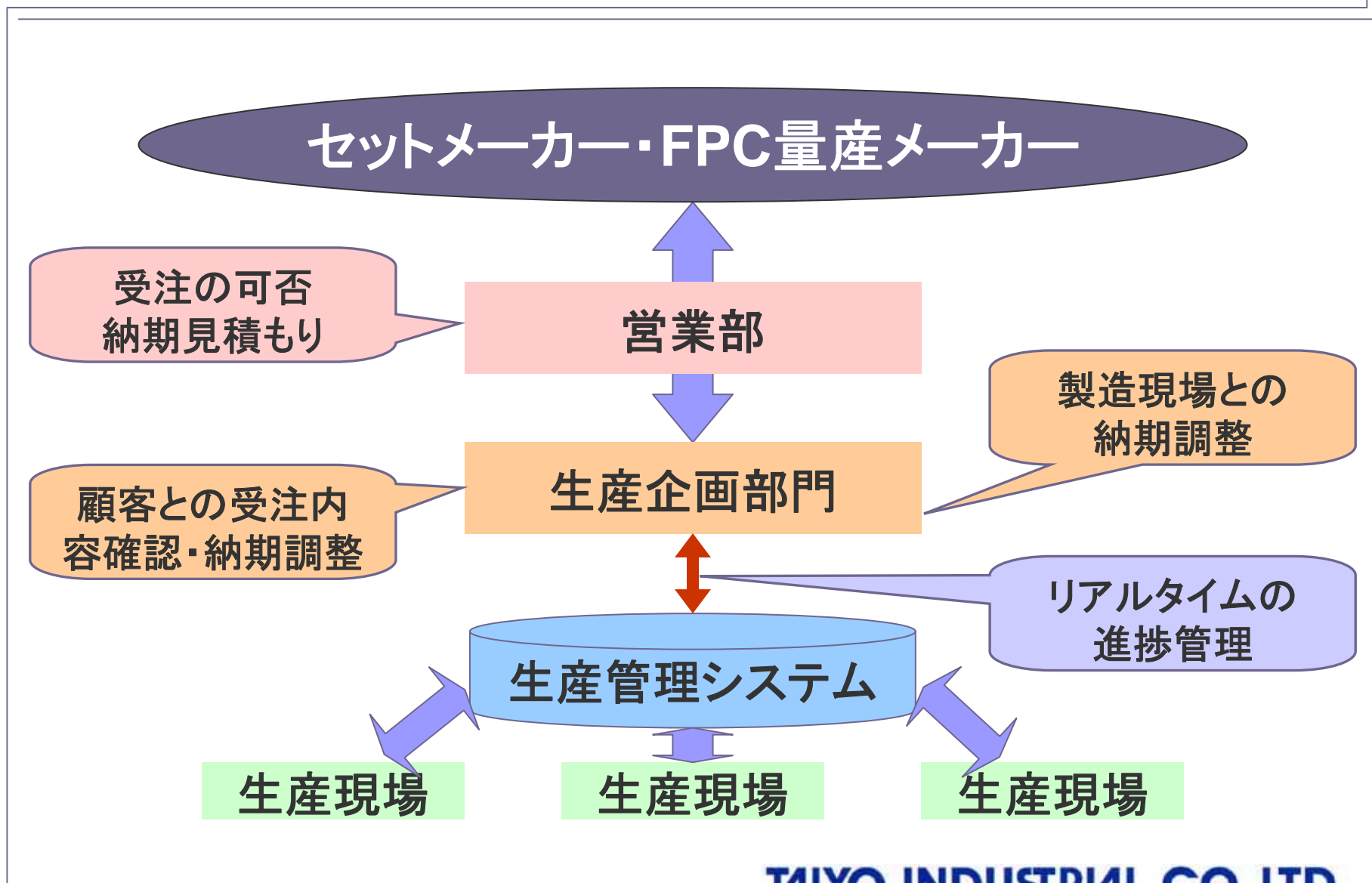
- セットメーカー等顧客から渡されたFPC試作の仕様書を短時間で図面化できる高い設計力を有する部門を擁しており、顧客からの厳しい要求を満足。
- 将来的にはセットメーカーの設計部分にまで食い込み、セットメーカーとの関係をさらに緊密に。

◆「実装」「最終検査」の取り込みによる一貫体制充実

- これらの工程は高度な技術力は要求されず、これまで外注依存度が高かった。
- これらを取り込み一貫体制を充実させることによって、顧客満足度を高め取り引きの安定化、拡大につなげる。

② 追従を許さない「短納期」の推進

短納期の要となる「生産企画部門」



② 追従を許さない「短納期」の推進

生産管理システムが効率生産を実現

【生産工程における設備と人手の関与のイメージ】

FPC量産メーカー

設備

人



生産管理システム

設備からのデータで設備を制御

太洋工業

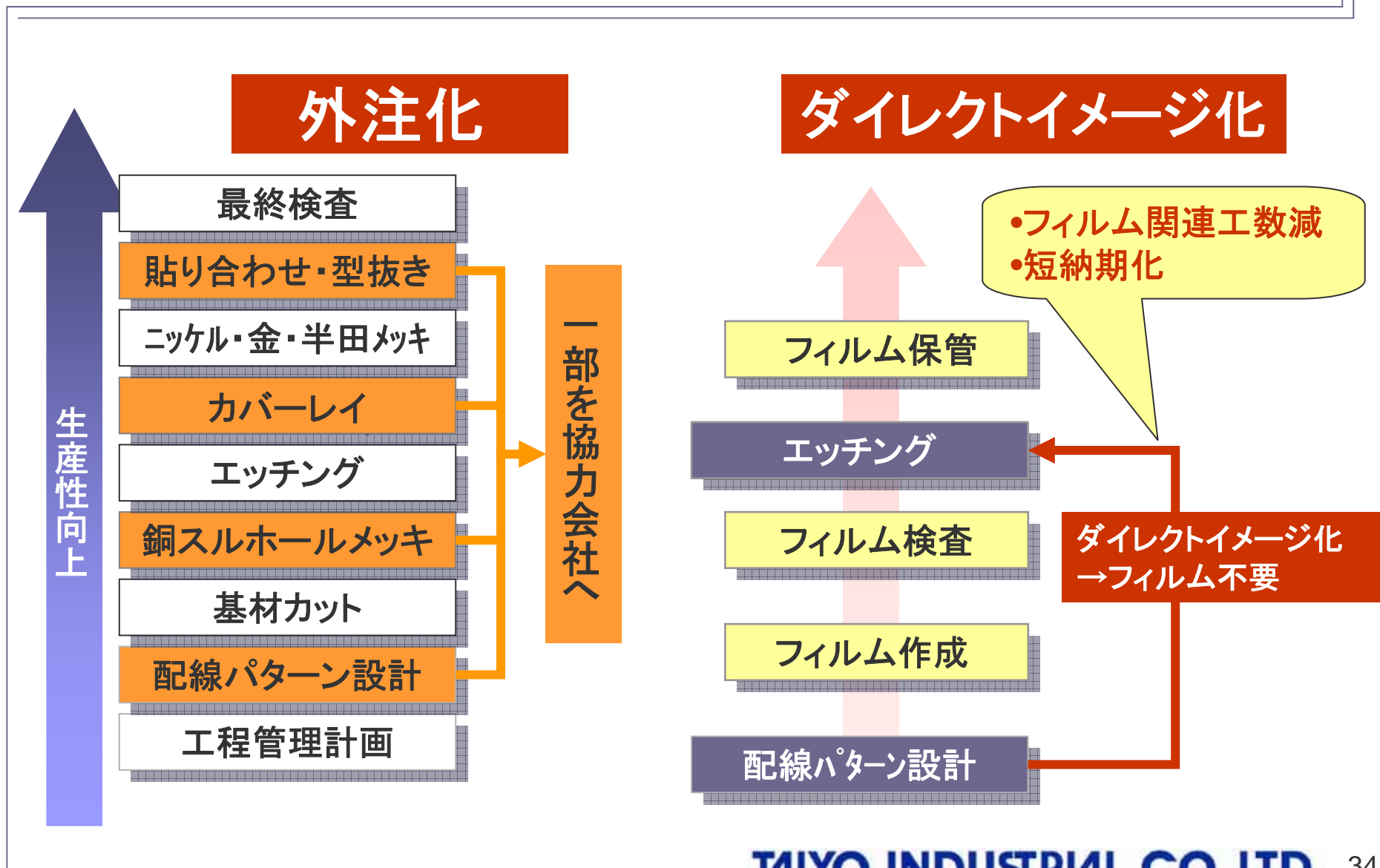


生産管理システム

要員からのデータで
要員に通知→優先順位判断

② 追従を許さない「短納期」の推進

外注化やダイレクトイメージ(直接描画)化も活用



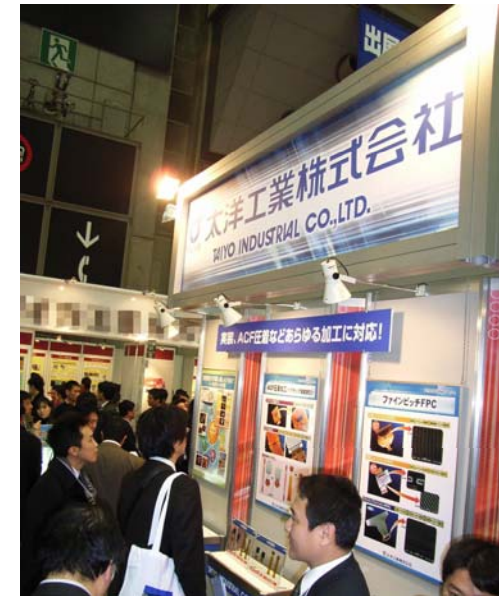
③積極的な営業活動の展開

◆顧客満足度の追求

- 03/12期より顧客満足度調査を実施。セットメーカー等顧客の意向を製品開発に反映させ、よりよい製品作りを目指す。
- 既存顧客の固定化、新規顧客の獲得へ。

◆各種展示会に意欲的に出展

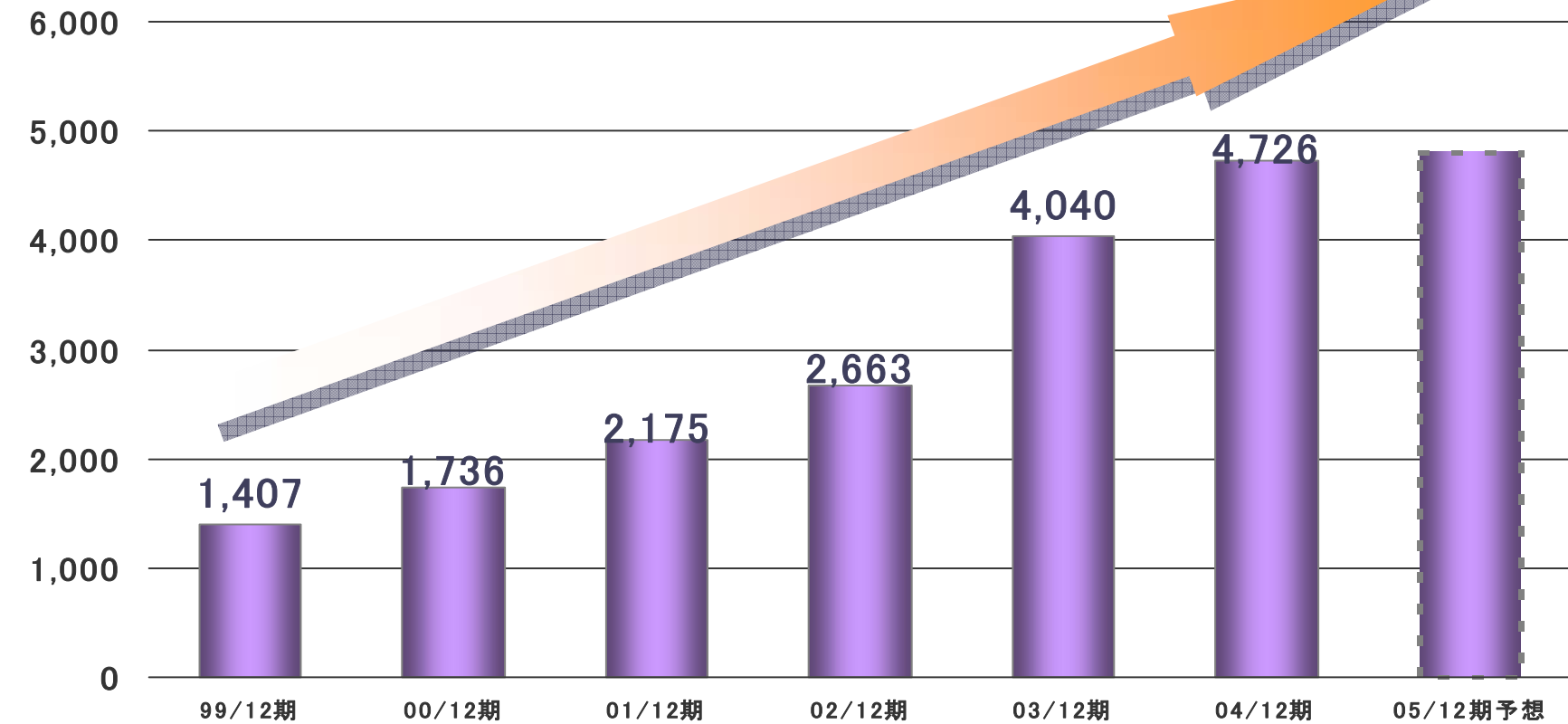
- 国内のみならず、中国での展示会にも出展。
 - 国内
 - プリント配線板エキスポ
 - エレクトロテストジャパン
 - 国際電子回路産業展(JPCA show)
 - 中国
 - HKPCA show
 - CPCA show



今後も主力のFPC試作は 売上高増加が期待される

＜FPCの売上高の推移＞

(百万円)



資料取扱上のご注意

- ◆ ※本資料に記載されております当社の将来の業績に関する見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- ◆ ※当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。